平成22年度事業評価シート（ソフト事業）

NO. 89　　評価1　ソフト

1　事業名等（Plan　1）

事業名	歴史資料購入事業
所属名	教育委員会事務局　文化財課　文化財グループ
第七次総合計画	政策　5「ゆたかさ」のあるまちをめざして　分野　4　文化　基本施策　1　郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える　施策　1　文化財などの保存・継承
予算科目	9 / 4 / 7　文化財費　94710　郷土資料・図書購入事業
	費　事業
	費　事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	
事業の実施主体	○　市　市以外→
事業の実施方法	○　直営　指定管理　業務委託　団体等補助　その他→

2　事業の目的・概要（Plan　2）

目的は対象（何を、誰を対象に）と意図（対象をどういう状態にしたいのか）を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために（対象）	一般市民　受益者数 96,231 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか（意図）	郷土に関わる歴史資料の流失、散逸を防ぐとともに、市民の郷土学習に役立てる
概要	事業の実施手法、手順	郷土に関わる歴史資料を購入する
概要	事業始期・終期	始期　年度から　終期　年度まで　設定なし　○
今年度の改善・改革ポイント		前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入

3　事業費の推移・結果（Do）

【コスト面】

区　分			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)			2,000	2,000	20,000	12,000	12,000
総合計画計画額(計画額)			2,000	2,000	20,000	12,000	12,000
事　業　費（計画・予算・見込・決算額）		予算額	2,000	13,000	20,000		
		決算・見込	1,884	12,920			
財源内訳	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地　方　債	予算額					
		決算・見込					
	その他 受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	その他 繰　入	予算額					
		決算・見込					
	その他 （　）	予算額					
		決算・見込					
	一般財源	予算額	2,000	13,000	20,000		
		決算・見込	1,884	12,920			

コスト指標	単位		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
H17国勢調査　96,231 人　32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価						
受益者負担率（受益者負担/事業費）	単位	%	–	–			
市民1人当たりコスト（事業費/H17人口）	単位	円/人	20	134			
1世帯当たりコスト（事業費/H17世帯）	単位	円/世帯	59	402			
受益者1人当たりコスト（事業費/指標）	単位	円/人					
↓　その他（空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出）							
	単位	円/人					

【成果面】

活動指標（投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標）　指標名：資料購入件数　資料・出展：　算出式：購入件数 /　単位：件

活動指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	活動の方向
目標値	—	—	15	15	15	15	15	↑
実績値	14	18						
達成率	—	—	0	0	0	0	0	

成果指標（活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響（効果）をどれだけ与えたのかを表す指標）　指標名：　資料・出展：　算出式： /　単位：

成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向
目標値	—	—						
実績値								
達成率	—	—						

4　分析・評価（Check）

①事業の目的評価（事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価）

（現状及び判定理由）郷土の歴史遺産を大切にし、地域に対する愛着を深めるというニーズは根強い。

A：非常に高い　B：高い　C：低い　D：非常に低い

目的評価：**A**

②コスト面評価（事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価）

該当項目「1」入力　（注　平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断）

減　少：　維　持：　増　加：1

（判定理由）旧矢嶋邸跡地等整備事業に伴う展示用資料の購入のため事業費が増加している。

③成果面評価（活動指標・成果指標から成果面を評価）

該当項目「1」入力　（注　平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断）

拡　大：1　維　持：　減　少：

（判定理由）郷土に関わる貴重な歴史資料の購入件数が増加している。

③成果面 ＼ ②コスト面	増加	維持	減少
拡大	○		
維持			
減少			

コスト・成果ポジション：C　第3水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	Ⅰ「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	Ⅱ「やや良い」	「Ⅰ」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	Ⅲ「普通」	「Ⅱ」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	Ⅳ「やや良くない」	「Ⅲ」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	Ⅴ「良くない」	「Ⅳ」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価　主管課

評価区分：**Ⅲ**

判断の理由：貴重な歴史資料には高額なものが多く、取得件数の増加とコスト面の関係が課題である。

分析・評価（Check）により明らかになった課題・問題点

購入した資料の展示活用を行う。

総合評価

コスト	成果	評価区分
中	中	Ⅲ

判断の理由等

「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要

歴史資料は活用方法を踏まえたうえでの購入が基本であり、旧矢嶋邸整備と並行し、より多くの方々に貴重な資料を見ていただけるような資料の活用方法を検討する必要がある。そのためには来年度以降の旧矢嶋邸等の入館者数の推移に傾注し、その効果をその都度把握していくことが重要である。

5　今後の方向性（Action）

活動の方針

評価結果に対する改善提案（下記チェック）

現状維持　■ 改善・継続　終期設定　休止　廃止　完了

次年度の実施方針

継続的に貴重な歴史資料の購入を進める。